

『山梨県北杜市による水源環境の保全を通じた地域活性の取組』概要

講師 篠原 振一郎 氏

(山梨県北杜市政策秘書部政策推進課政策調整担当副主幹)

今回は本市の宝である水資源を守る取組を中心に、本市が取り組んでいる環境保全事業と企業の皆さんとの連携事業について紹介します。

初めに、市の概要を紹介します。北杜市は山梨県の北西部に位置し、八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、瑞牆山などの日本百名山に囲まれた自然豊かな地域です。本市は平成の大合併において、8町村が合併してできた市であり、昨年は11月1日に市政17周年を迎えました。面積は約602平方キロメートルで、山梨県内では最大の面積を有し、東京の23区とほぼ同じ大きさです。人口は約4万4000人で、少子高齢化は進んでいますが、移住先としては以前から人気で、今般のコロナ禍でさらに転入超過が顕著です。

次に、杜市の自然について紹介します。本市は南アルプスと甲武信の、二つのユネスコエコパークがある全国で唯一の自治体です。周囲は日本百名山に囲まれ、日本有数の山岳景観を誇っており、晴れた日には富士山を大きく望むことができます。中でも甲斐駒ヶ岳は日本アルプス屈指の名峰として知られ、『日本百名山』の作者の深田久弥さんも、日本の十名山を選べと言われてもこの山は落とさないだろうと絶賛したほど、美しく荘厳な山でもあります。

次に、市の自然の特長に日照時間の長さがあります。日本の年間平均日照時間は約2000時間といわれていますが、本市は2500時間を超えており、日本一の日照時間です。これは北斗市立明野中学校気象観測委員会の生徒がデータを収集し、昭和56年に子どもたちが日本一を証明しました。また、60万本のヒマワリを楽しめる明野サンフラワーフェスを毎年行っており、多くの方が来場しています。ヒマワリ畑からは本市を一望できる素晴らしい眺望も楽しめますので、コロナの収束後にはぜひ、遊びに来てください。

次に、市の源泉について紹介します。本市には環境省が設定した平成の名水百選を3カ所有しており、1自治体では最多です。初めに白州・尾白川です。こちらは甲斐駒ヶ岳をはじめとした南アルプスが水源で、ミネラルウォーター等の採水地として知られています。次に八ヶ岳南麓高原湧水群は八ヶ岳を水源として、約50以上とも言われる湧水があり、中でもサンドイッチ湧水が下流の三つの村に均等に水を分けるため、かの武田信玄が整備したといわれています。また、平成の名水百選でもある金峰山・瑞牆山源流はその名のとおり、金峰山・瑞牆山を水源地とし、特に秋には素晴らしい紅葉を見せてくれる場所でもあります。

続いて、本市の産業について紹介します。先ほど紹介した水を生かした1次産業の農業や2次産業の飲料水や酒などを製造する食品製造業、さらに3次産業として小淵沢や清里といったリゾート地でのホテルや飲食店などの観光業が盛んな町でもあります。農業は特に米が有名で、特に武川町で栽培される農林48号は幻の米とも言われています。また、ミ

ネラルウォーターは全国有数の産地でもあります。飲料水メーカーや酒、お菓子、農産物など、全国的にも有名な企業が多く製造の拠点を構えており、本市の水資源を生かして製造された食料品などが日本全国に届けられています。

水源環境の保全を通じた地域活性の取組

1 北杜市環境保全基金・協力金

- ・制度概要
- ・基金活用内容
 - ①市民提案型「環境保全事業補助金」
 - ②市実施事業

2 企業との連携

1 北杜市環境保全基金・協力金

・概要

本市の貴重な森林や水資源等の自然環境の保全に資する施策を円滑に推進し、次世代に引き継いでいくため、平成20年度に設置

企業の皆様からの「環境保全協力金」

と

個人の皆様からの「ふるさと納税」

の寄附金を積立・運用

・運用状況

昨年度実績として、協力企業数81件、協力金額39,182千円

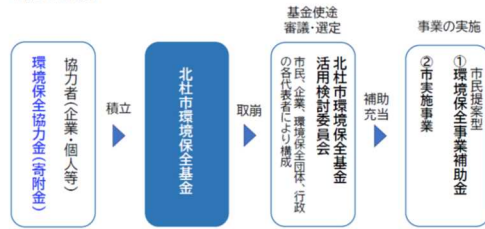
7

8

ここからが本題です。本市における環境保全の取組について、大きく二つに分けて紹介します。1点目は環境保全基金協力金についてです。ここでは制度の概要と基金の活用内容について、幾つかの事例を紹介します。北杜市環境保全基金協力金は市内の森林や水資源等の保全を行い、次の世代に引き継いでいくことを目的として、平成20年度に創設されました。本基金はこの理念に賛同する企業の皆さまからの環境保全協力金とふるさと納税による個人からの寄附金によって運用されています。多くの企業は協力金という形で、地域の課題解決や環境保全に貢献できるものとして、賛同しています。現在の企業版ふるさと納税の先駆けとなり得る、本市独自の制度でもあります。昨年度の実績は81の企業から協力してもらい、協力金も約3900万円に上りました。

1 北杜市環境保全基金・協力金

・制度の枠組み



9

1 北杜市環境保全基金・協力金

・基金活用のテーマと対象事業

「森を育て、水を守る」をテーマとした次の事業

- ・環境保全事業
- ・環境教育事業
- ・南アルプスユネスコエコパーク及び甲武信ユネスコエコパーク関連事業

・基金を活用した事業の実績

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
市民提案型(補助金交付)	-	9	7	10	13	14	12	11	12	16	17	18	12
市実施事業	2	18	3	2	5	6	13	8	11	11	11	8	8

10

続いて、本制度の枠組みについて紹介します。まず、企業や個人からもらった協力金は北杜市環境保全基金として積み立てます。その基金の使い道を市民、企業、環境保全団体等の代表者からなる、環境保全基金活用検討委員会で審議し、市民提案型の環境保全事業補助金と市が実施する二つの事業に充当される仕組みです。基金を活用する事業は、『森を育て、水を守る』をテーマとした環境保全や環境教育、ユネスコエコパークに関連した事業に活用しています。市民提案型環境保全事業補助金は、補助率が3分の2で、上限は、地域住民が参加する事業は100万円で、その他は30万円となっており、1事業は3年間、補助を受けられる制度です。基金設置当初から約50の市民団体に補助金を交付しており、市民が活動

を始める上で、その後押しになっていると考えています。

ここからは環境保全事業補助金を活用した事例を紹介します。まずは、子ども環境フェスタというイベントです。子どもたちに環境問題について、楽しみながら学んでもらう、参加・体験型のイベントです。北杜市地球温暖化対策・クリーンエネルギー推進協議会が実施しました。次は、地域住民で構成される、台ヶ原ふるさとづくり協議会が実施した事業で、蛍の飛び交う田園の姿を復活させる取組として、地元の子どもたちと共に、蛍の生息に適した周辺環境の整備や、幼虫を放流する取組をしています。

3つ目は、砂防校外授業です。豊富な水資源は恩恵だけではなく、災害のリスクも高まります。こちらは昭和34年に地元の大武川で発生した大規模な水害を後世に残そうと、NPO法人甲斐駒清流懇話会が災害や地域の防災について学ぶための環境教育事業として、子どもたちを対象に実施した授業となります。4つ目としては、市の守護動物で、国の天然記念物であるニホンヤマメについて、生態と自然との関わり合いを子どもたちに学んでもらうため、市内の保護団体が小学校で出張授業をしています。

このような補助金の活用の中でも、地域と企業が連携した取組として、白州町地下水保全・利用対策協議会について、詳しく説明します。この協議会が設置されている白州町地域は地下水を原料として飲料水を製造する企業が多く立地する地域です。一方で、住民にとっても、地下水は生活用水として欠かせない資源であることから、平成9年に地下水を利用する企業と旧白州町が、地下水を将来にわたり、安定的に利用できるよう、地下水保全を目的に設置しました。現在、本協議会を構成する会員はサントリープロダクツ株式会社様、熊本県果実農業協同組合連合会様、株式会社シャトレゼ様、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社様、そして、浄水の事業を行っている本市の5事業者です。

協議会が実施する事業は主に二つです。一つ目は地下水の観測井戸の整備とそのモニタリング事業です。平成11年に最初の観測井戸を設置して以来、現在は4カ所あります。観測井戸は工場の下流域に当たるところに設置して、地下水の水位を観測しています。また、観測井戸の更新時には市の環境保全事業補助金を活用しています。そして、観測した地下水のデータを、市の実施事業として専門家である第三者が評価します。専門家からは、地下水水位は安定的で、概ね問題ない状況であるという意見をもらっています。また、このデータと評価内容は市のホームページでも公開しており、地域住民の安心にもつながっています。

続いて、同協議会が実施する二つ目の事業である神宮川流域環境保全事業を紹介します。神宮川は工場が立地する地域にある河川で、この川から取れる花こう岩は毎年、明治神宮に玉砂利として奉納しています。協議会では環境保全事業補助金を活用し、この河川の環境整備として、毎年、会員企業の従業員、近隣地区住民、地元事業者等の皆さま、約120名により、手作業による木の伐採や除草作業などを実施しています。

続いて、ここからは基金を活用した市が実施する環境保全事業について、幾つか紹介します。初めに南アルプスユネスコエコパーク推進事業です。ユネスコエコパークは生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としてユネスコが認定しています。具体的には、地域の

自然と文化を守りながら、地域社会の発展を目指す取組で、日本では10の地域が登録されています。南アルプスユネスコエコパークは平成26年に登録が決定し、山梨県、静岡県、長野県にまたがる日本最大のエリアを持つエコパークで、10の市町村のエリアで構成されています。北杜市のエリアである白州・武川地域の特長は、甲斐駒ヶ岳などの南アルプス山脈とそれに支えられた水資源、農産物などが挙げられます。また、江戸時代に甲州街道の宿場であった台が原宿の景観や虎頭の舞など、歴史や文化が地元住民によって守られてきた地域でもあります。

市では南アルプスユネスコエコパーク推進事業として、観光保全基金を活用し、さまざまな取組を行っています。具体的には地域の財産区の支援や次世代育成、地域の魅力の掘り起こしなど、11の多岐にわたる内容で、これらの事業の主な実施主体は地域住民や企業、行政で構成されている地域連絡会が務めています。また、先ほど紹介した地下水位の第三者評価も本事業の一部として実施しています。

ここからは事業の一部を紹介します。初めに動植物保全活動、次世代育成事業として、地元の白州中学校と連携し、名水百選の尾白川の生き物調査を実施しました。また、地元の武川中学校の生徒と植物の調査を行い、標本にしました。このような生き物や植物調査を通じて、子どもたちに次世代の担い手となってもらえるよう、事業を実施しています。

次に地域の魅力掘り起こし事業です。戦国時代に狼煙材として利用されていた中山という里山を対象に、文化の継承と観光資源の掘り起こしを目的として、登山道や展望台の周辺を整備しました。一例としては、長野県の武田信玄狼煙会と協力し、狼煙リレーを実施したり、中山の頂上の展望台からの眺望をいっそう素晴らしいものにするために、展望台周辺にツツジやモミジの植樹を行ったりしました。

市の実施事業の二つ目は、世界に誇る「水の山」北杜ブランド事業を紹介します。本市では南アルプスなど恵まれた自然環境によって育まれた名水を生かしたブランド事業を推進し、日本を代表する名水の地となるため、世界に誇る「水の山」宣言を平成27年に宣言しました。本事業はこの宣言に基づき、水と暮らす持続可能な町をブランドイメージに掲げ、市の資源である水と山のブランド推進と、それによる地方創生を目指し、地元企業と「水の山」パートナー協定を結ぶ中で、パートナーシップによる取組を進めるプロジェクトを実施しています。

本プロジェクトの体制は、このプロジェクトの中心的な役割を担うパートナーとして、サントリー食品インターナショナル株式会社様など7社の企業と市が協定を結び、パートナー企業が独自に取組を進めていることと市との連携事業も行っています。また、パートナー企業の下に46の企業にサポーターとして協力をしてもらっています。市でもこのプロジェクトにちなんだ事業を実施するなど、官民が連携してこのプロジェクトに取り組んでいく体制です。

「水の山」事業のこれまでの取組は、ブランドイメージキャラクターとしてのミズクマを制作し、広報媒体などで広く活用しています。また、「水の山」ウィークとして、感謝祭を

開催し、子どもたちとのワークショップやパネルディスカッションを実施するとともに、さらに「水の山」映像祭として、「水の山」の魅力を紹介する短編映画の制作やフォトコンテストの開催など、企業や関係者とともに、「水の山」の価値や魅力を伝えるべく、取組を行ってきました。そうした結果、市内での「水の山」の認知度も高まり、今後は市外の方をターゲットに事業を展開し、実際に本市に来てもらい、楽しんでもらえるような取組を、企業とともに実施したいと考えています。

続いて、市の実施事業の三つ目は環境教育推進事業です。本市では市の自然環境を守る次世代を育成するため、環境教育にも力を入れています。この事業では地域の環境保全団体や、清里にあるキープ協会にも協力してもらい、進めています。その一環として、幼児環境教育プログラム体験授業を行っています。市内の保育園児を対象に自然、エネルギー、ゴミリサイクルなどをテーマとした、幼児向けの環境教育プログラムを開発しました。園児が森の中で木の実拾いを行い、自然を直接感じ、楽しみながら、その大切さを理解してもらえるようなプログラムです。また、環境教育リーダー養成講座も行っています。将来、子どもたちへの環境教育を実践できるよう、大人向けの講座として、身近なフィールドを生かした環境教育プログラムの体験などを通じて、リーダーの育成を目指しています。

水源環境の保全を通じた地域活性の取組

1 北杜市環境保全基金・協礼金

- ・制度概要
- ・基金活用内容
- ①市民提案型「環境保全事業補助金」
- ②市実施事業

2 企業との連携

2 企業との連携

・経過

- ・防災・防犯、福祉、教育、環境、スポーツ、観光等において、これまでも多くの企業・団体と連携し取組を実施
- ・近年では、地域の課題解決に向け、民間の知見やノウハウを生かすため、SDGsの理念に基づき、企業と連携協定を結び、取組を進めている。

・近年の協定状況(SDGs・環境保全項目含むもの)

- ・株式会社シャトレーゼホールディングス
- ・THE NORTH FACE
- ・コカ・コーラ ボトラーズジャパン
- ・東洋ライス株式会社
- ・株式会社はくばく
- ・日本郵便株式会社 北杜市内郵便局
- ・株式会社ちとせ研究所
- ・サントリー食品インターナショナル株式会社

30

31

続いて、大項目の二つ目、企業と連携した取組について紹介します。本市ではこれまでも防災や福祉、環境等の多岐にわたり、多くの企業、団体と連携し、取組を実施してきました。特に近年では SDGs の理念に基づいた連携協定を結ぶなど、本市の未来を共に築いていく取組を進めています。そのうちの幾つかの取組について紹介します。

初めに環境教育分野の連携として、昨年1月にパートナー協定を結んだサントリー食品インターナショナル株式会社様との取組を紹介します。サントリー様はこれまで、水育として、工場見学や自社工場敷地内などでの体験型の環境教育の開催、また、水源管理を目的に、南アルプスの広大な面積の森を天然水の森として整備・保全しています。また、こうした取組が認められ、先月、南アルプス白州工場が AWS 認証を取得しました。サントリー様とは協定を通じて、市の豊かな森と水を次世代に引き継ぐ取り組みや環境教育推進を実施しています。本年度は市内の全ての小学校を対象に、サントリー様のインストラクターが直接、学校に出向き、森と水の学校の出張授業を実施しました。授業ではこれまでサントリー様が行ってきた水育のプログラムとして、森の役割や水が作られる過程、南アルプスの自然の特

長などを話し、子どもたちは身近な森や水の大切さについて、あらためて気付いた様子でした。

続いて、農業分野の連携として、東洋ライス株式会社様と株式会社ちとせ研究所様との取組を紹介します。東洋ライス株式会社様は米のとぎ汁の環境負荷に着目した独自の精米方法で製造された無洗米の活用や、精米時に取り除かれた米ぬかを肥料として活用するなどの取組を通じて、順番型農業や地産地消、市民の健康増進の実現などを目指しています。また、ちとせグループ様は、ちとせ様のバイオ分野における知見と技術を生かし、持続可能で高品質な農業を推進し、循環型社会の構築を目指しています。

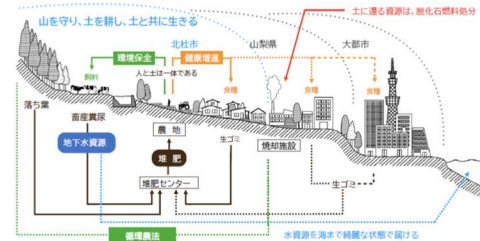
ここで本市が目指す循環型農業の将来像のイメージを紹介します。里山を管理する中で収集される落ち葉や、本市の畜産農家から出るふん尿、家庭から出る生ゴミなどを主原料に、質の高い堆肥を効率的に作り、農薬や化学肥料に頼らない農業への転換を目指すことで水質保全や市民の健康増進、さらにもうかる農業につなげ、農業分野での循環型社会の実現を考えています。こうした社会の実現には民間企業の専門的な知見や技術が必要なことから、本市は現在、企業の皆さまと連携して取組を進めています。

2 企業との連携

・連携事例【農業分野】

「東洋ライス株式会社」様、「株式会社ちとせ研究所」様

○北本市が目指す循環型農業の将来像イメージ



35

次に協定に基づく取組を紹介します。東洋ライス株式会社様が開発した無洗米の金芽米を市内の保育園や小中学校で提供しています。金芽米はお米の栄養とうま味成分を多く含み、体にもとてもよく、おいしい無洗米です。お米自体も市内で生産された特別栽培米を使用しており、子どもたちに環境保全の大切さや市内のお米のおいしさを知ってもらい、誇りに思ってもらえるような食育の取組として実施しています。

また、東洋ライス株式会社様やちとせ研究所様、市内の企業の皆さまのご協力の下、本年度、第1回名水の里、米食味コンクールを開催しました。このコンクールを通じて、近年の気温上昇や循環型農業に対応した生産技術の向上を図り、もうかる農業につなげる取組として、今後も実施していく予定です。以上、長くなりましたが、本市の取組について紹介しました。

おわりに

○今後について

- ・本市の貴重な水資源を保全していくため、あらゆる観点から活動を進めていく。
- ・ステークホルダーと連携し、「森を育て、水を守る」活動を継続
- ・抱い手確保、生産性の向上のため、SOCIETY5.0を目指したDXの取組を推進



人と自然と文化が躍動する
環境創造都市を目指して

本市は今後も貴重な水資源を市民、企業、行政など、全てのステークホルダーが連携し合いながら、森を育て、水を守る活動を継続していきます。また、この地で育つ子どもたちに未来の担い手となってもらえるよう、環境教育にもさらに力を入れていくと共に、IoTなどの技術を活用したソサエティー5.0の社会を目指してまいります。

以上

37